

標準住宅モデルの暖冷房負荷計算Excel【出力シート】

計算モデル名: 板橋戸建間欠

住宅モデル: 戸建住宅

延床面積: 125.88 m²

暖冷房運転: 部分間欠運転

暖房22℃、冷房28℃60%、窓開放あり、地表面反射10%

都市: 大阪

地域区分: IV地域

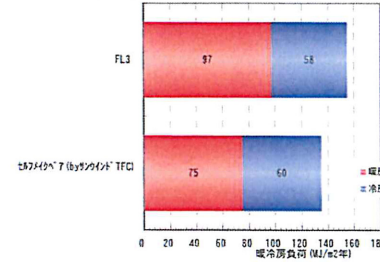
窓ガラス	熱性能		単位床面積あたり			一戸あたり		
	熱貫流率	日射熱取得率	暖冷房負荷(MJ/m ² 年)			暖冷房負荷(MJ/年)		
	(W/m ² K)	(-)	暖房	冷房	暖冷房	暖房	冷房	暖冷房
FL3	5.95	0.88	97	58	155	12215	7303	19518
セパイクバ 7 (byサンウインド TFC)	4.60	0.88	75	60	135	9445	7535	16979

窓ガラス	CO2排出量(kg-C/年)			CO2排出量(kg-CO2/年)		
	暖房	冷房	暖冷房	暖房	冷房	暖冷房
	合計	電気		合計	電気	
FL3	232	74	306	851	273	1124
セパイクバ 7 (byサンウインド TFC)	179	77	256	658	282	939

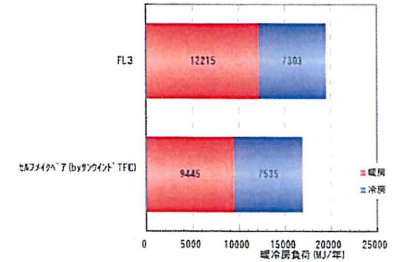
窓ガラス	暖冷房費用 (円/年)			ぶなの木 (本/年)		
	暖房	冷房	暖冷房	暖房	冷房	暖冷房
	合計	電気		合計	電気	
FL3	32196	14227	46423	77	25	102
セパイクバ 7 (byサンウインド TFC)	24893	14679	39572	60	26	85

【換算係数】	単位(unit)	灯油	ガス	電気	(冷房)
		L	m ³	kWh	
機器使用割合(-)	0.7			0.3	1.0
機器効率(-)	0.9		1.0	2.0	3.0
発熱原単位(MJ/unit)	36.7		45.0	3.6	
CO2排出原単位(kg-C/unit)	0.679		0.621	0.110	
単価(円/unit)	83			21.04	
1kg-C	3.67 kg-CO2	ぶなの木換算			11 kg-CO2/本

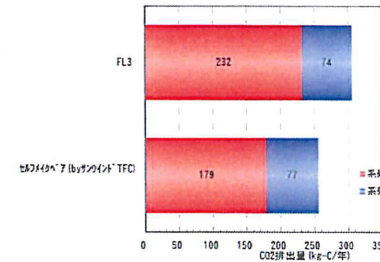
単位床面積あたり暖冷房負荷



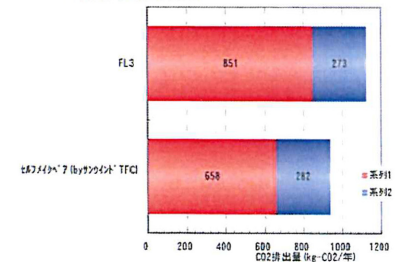
一戸あたり暖冷房負荷



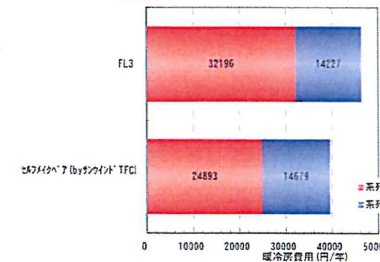
CO2排出量 (炭素換算)



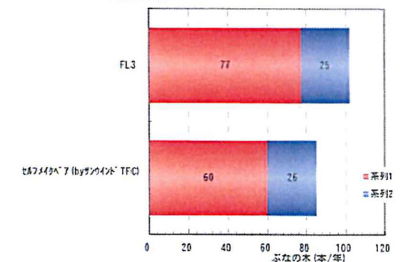
CO2排出量 (二酸化炭素換算)



暖冷房費用



ぶなの木換算



※年間暖冷房負荷は、住宅用熱負荷計算プログラム“SMASHEX”により算出しています。

※住宅モデルは「日本建築学会 住宅用標準問題（半田川）」を開口率25%に変更したものと、暖床天井の断熱仕様は地域区分ごとの次世代基準の断熱材厚さを満たすものとします。空調運転スケジュール、室内使用スケジュールなど住宅用標準問題に従うものとします。

※方位による窓の使い分けは考慮せず、住宅モデルの全ての窓に同じガラスと遮断材が用いられると仮定し、窓の日射熱取得率のうち、対流成分を15%、放射成分を85%としています。

※各種係数を乗じることにより、年間暖冷房負荷から暖冷房に係るCO2排出量、暖冷房費用、ぶなの木相当量を算出しています。

※この計算結果は前提条件により変動するものであり、保証するものではありません。